

(2/19玉井)

核兵器先制不使用宣言を

米科学者ら700人、大統領に書簡

【ワシントン＝島田峰隆】ノーベル賞受賞者21人を含む約700人の科学者らが16日、バイデン米大統領に対する連名の書簡を発表し、政権が間もなく発表する「核戦争の見直し」(NPR)の中で核兵器「先制不使用」を唱諭するよう求めました。戦略核兵器の配備数を1000発未満に減らすことを要請しました。

書簡には、非常利害團体「米国科学アカデミー」や米科学者団体「憂慮する科学者同盟」(UCS)などに所属する科学者や技術者らが署名しました。

書簡は「核兵器の危険に深く憂慮している」と強調。軍縮に向けて核不拡散と戦争に発展する可能性を減らせる」と指摘しました。

物理学者のジェローム・アイザック・フリード

削減は、中国やロシアとの競争で悪化する核軍拡競争を緩和させ、「米国の安全保障を行なわなければならない」と強めます。核兵器が人類の存続に与える脅威は、核兵器を大きく減らし、最終的に絶する」と述べました。

大統領だけが核兵器の使

用を命じる権限を持つ仕組みの変更や、2020年か

ら始まる大陸間弾道ミサイル(ICBM)の更新の延期も提案しました。

書簡に署名したノーベル

ノーベル賞受賞者のジョン・B・マクニル

は、「世界中に大量にある

核兵器が人類の存続に与え

る脅威は、核兵器を大きく減らし、最終的に絶する

ことによってのみ対処でき

ること」と述べました。